

学校概要

創立 68 周年	学校長 矢野 和佳乃	副校長 榊原 一紀	学期 2 学期制	児童・生徒数 410 人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 2 通級指導教室(情・難言)併設 主な関係校: 金沢中学校・西柴中学校				

学校教育目標

自分らしさを発揮し、認め合い、思い合い、豊かに生きることができるようにします。  
 【個性】自分の考えや思いを生かし、互いのよさや可能性に気づくような活動の機会を計画的につくります。【知・開】  
 【共生】相手の立場や気持ちを大切に、人や自然とかかわれるような活動を積極的にすすめます。【徳・公】  
 【自立】自分なりの課題をもち、解決に向かって進んで追究していく姿に寄り添い育てます。【知・体】

学校の特徴

□地域に公共機関・歴史的建造物・企業などが多数あり、材に恵まれ、学習を広げることができる。  
 □通級指導教室(情緒・難聴・言語)を併設しており、本校の特別支援教育においても通級指導教室の専門性を生かしたり、外部機関との連携を図ったりしながら、随時ケース会議を開催するなどしてきめの細かい支援を行うことができる。  
 □たてわり活動やあいさつ運動に取り組み、思いやりの心や規範意識、コミュニケーション能力の育成に力を入れている。

学校経営中期取組目標

- ・自他の考えや思いを伝え合う力を育成する中で、互いのよさや違いを認め合ったり、思い合ったりする心情を育てます。
- ・たてわりの「なかよし活動」や学年学級の活動、地域との協働を通して、人と人との豊かなかかわりや人権感覚の育成に努めます。
- ・自分なりの課題をもち、体験的、問題解決的な学習や協同学習に取り組み、自ら学ぶ意欲や自尊感情の育成に努めます。

小中一貫教育の取組

金沢中	ブロック	： 金沢中・金沢小・文庫小・釜利谷東小・八景小
9年間で育てる子ども像	「コミュニケーション能力」と「課題達成のために協力する力」を育成する。 ～他人を思いやり、地域社会に貢献できる子～	
自校の具体的取組	「自己肯定感を育み学習意欲を高める授業づくり」を研究テーマにした重点研を行い、生活科、総合的な学習の時間の授業研究を通して子どもたちが主体的に課題達成に向けて協力していく力を養う。・なかよしスマイル会や代表委員会などを通して、子どもたちが自ら他人を思いやることの大切さに気付いていけるようにする。・地域清掃や総合的な学習の時間などを通して地域の人や材と継続的にかかわる活動を通して、自分達の住んでいる地域に対して愛着をもつことができ	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	・子どもが学習の主体となる「分かる・楽しい授業」の設計を進め、人とのかかわりながら自ら学ぶ意欲や基礎的基本的な力、思考力、判断力、表現力を育てます。	本校の子どもたちの実態を振り返り、重点研究のテーマを「自己肯定感を育み学習意欲を高める授業づくり」と設定した。「学習が楽しい」「友達から認められて嬉しい」と感じられる授業展開を目指していく。生活科と総合的な学習の時間を中心に研究を進め、いきいきと伝え合う子の育成や主体的に学び合う姿を目指す。
豊かな心	・一人ひとりの人権を尊重できるよう、道徳の時間を含む、各教科の授業や学校生活をさらに充実させ、自分も他の人も大切にできる心情や態度を育てます。	児童人権委員会「なかよしスマイル会」を通して、子どもたちが日頃感じている思いを取り上げ、子どもの目線からの人権意識の向上を図る。人権週間に人権朝会や人権講演会を行い、より豊かな心と自己肯定感を育む。道徳の教科化と評価について職員間での研修を行う。また、道徳を中心とした授業参観を行い、保護者とともに意識を高める。
健やかな体	・心身ともに健やかでいられるようにするために、自分を知り、自分なりのめあてをもって体力向上に取り組んだり、生活面を豊かにしたりする態度を育てます。	体育科の学習においては、一人ひとりの実態にあつためあてをもち、楽しく運動に取り組めるような授業を展開する。またスモールステップで、自分の成長を実感できるような場を工夫する。・運動に親しみ、健康面・体力面が向上するように、週一回の「外遊びデー」や、「マラソン週間」「長縄集会」等の取組を全校で計画的に実施する。
特別支援教育	・個別の教育支援計画や個別の指導計画を立てたり、学習や生活スタンダードを作ったりして、組織的・継続的な支援や個に応じた支援を行います。	全校の子ども一人ひとりを大切にすることを前提とし、児童理解の情報交換を常日頃から行う。支援が必要な子どもたちを理解し継続的に支援するために、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し定期的に振り返っていく。従来のスタンダードを子どもの実態に応じたものへと見直し、職員が同じ方向性をもってぶれない指導を組織的に行っていく。
いじめへの対応	・子ども一人ひとりが安心安全な学校生活を送ることができるように、組織的、継続的な支援、指導を行います。	日々の子どもたちへの声かけや指導、支援の他に、年2回行うYPアセスメントシート及び年4回行ういじめアンケートを通して、いじめの早期発見、早期解決に努める。また、いじめが起これない学級経営に努める。「いじめ対策校内委員会」を月1回実施し、全職員で共通理解を図るとともに、地域や関係機関との連携を図り、組織的に取り組む。
教育課程学習指導	・安全で安心感のある教室等で、問題解決的な学習を通して、分かる・できる喜びや楽しさを互いに分かち合う中で、自己肯定感や他者肯定感を育てます。	生活科と総合的な学習の時間に重点を置いて子どもたちの「学ぶ意欲」を高める授業づくりを行う。特に、総合的な学習の時間においては、地域の材を生かした教材開発を行い、町と人とかかわりながら学べるような単元計画を構想していく。少人数やTTの授業、AT、取り出し学習などの学習サポーターによるきめ細やかな支援を行うことにより、基礎学力の向上に努める。
地域連携	・保護者・地域のサポートを生かし、学習活動や学校行事などを通して、よりいっそう連携を深めます。また、引き続き積極的に情報を発信します。	「総合的な学習の時間」や「生活科」では、地域のことについて話を伺ったり、地域に出向いて積極的に地域の材を生かした学習活動を計画したりする。登下校を見守って下さっている見守り隊の方々や学区の商店街との関わりを深め、子どもたちが地域と共に学べる環境をつくる。地域とともに防災体制の見直し・強化を図る。

人材育成・組織運営	・学年間による教材研究や児童指導、各教科の指導法研修、メンターチーム等で縦横のつながりを綿密にし、全職員で円滑な組織運営を行います。	・学年研究会を充実させ、教材研究や児童理解を深めるように努め、職員間で共通理解を密に図る。また、経験豊かな教師が経験の浅い教師に指導法を伝える研修の機会を設け、各教科の専門性を高めるとともにメンター同士の活動を確保する。諸会議・研修の精選や効率化を図り、会議時間を縮減したり児童と向き合う時間を確保したりできるようにする。
-----------	--	---